

1. 発表者氏名 前田 教嗣
2. 学校名 岐阜県立長良特別支援学校
3. 発表テーマ「個別の指導目標に対する到達度の適切な評価の在り方について」
4. 学校概要

全児童生徒78人のうち約半数が脳性まひ等による重症心身障がいをもっているため、自立活動を主とした教育課程で学習している。23人は自宅や隣接する長良医療センターから通学し、19人が訪問教育であり、その多くは日常的な医療的ケアを必要としている。人工呼吸器を使用するなどの超重症児も在籍している。そのため本校では常時5名の看護講師を配置し、全校児童生徒の医療的ケアにあたっている。なかには体調が安定せず、持続して授業を受けることが難しい児童生徒もいる。

5. 発表概要

(1) 研究テーマ設定について

自立活動を主とした教育課程による学習を行っている児童生徒を対象とした研究グループでは、教員全員が同じ観点で児童生徒の姿をとらえて支援し、複数の目で児童生徒の変容を確認していくことにより適切な実態把握や目標設定につなげている。そこで、『個別の指導計画』に掲げた指導目標の到達度を、具体的視点で、客観的に評価して、次年度の『個別の指導計画』の作成にあたることにより、実態に応じた細かな段階を考えた指導目標を設定し、具体的な指導方法を考えることができると本テーマを設定した。また、次学年や他施設に引き継ぐ時にも活用できる、分かりやすい表記の工夫も考えていきたい。

(2) 研究方法

- ・評価指標、条件、基準を明確化するために「個別の指導計画」の指導目標について検討し、見直しを行う。
- ・研究授業を通して対象児童生徒の支援内容や方法を検討する。
- ・複数の教員間で共通理解を図るための記録表や授業改善に役立つツールの検証、作成を行う。

(3) 事例研究

対象生徒：中学部2年生男子

『個別の指導計画』の指導目標

「スイッチの操作と光や音の変化との因果関係を理解し、1分間程度繰り返しスイッチを使って遊ぶことができる。」

①指導目標の検証

年間指導目標の到達度を適切に評価するために、目標を具体化することで、教員間で評価の場面を明確にして、共通理解を図りながら支援した。

②記録表を用いた評価を生かした教材教具の工夫・改善

対象生徒の活動時の記録表を作成し、複数の教員で確認することで、生徒の実態を細かく捉えた。また、毎時間記録表を基に評価することで、対象生徒の目標達成のために活動時の姿勢や教材教具を改善した。対象生徒は左腕を意図的に動かそうとすることがあり、物を引っ張る動作が得意なため、その動きを生かして紐スイッチを用いた教材と、視覚障がいがあり聴覚優位のため、音や香りを感じられる教材を準備した。

③成果

活動が進むに連れて、スイッチを自分から握って引っ張ろうとしたり、スイッチを引いてカチッという音を聞いただけで笑顔になったりするなど、期待しているような様子がみられた。また、どの教員でも客観的に評価できる記録表を作成することで、対象生徒の指導目標の到達度を適切に評価でき、授業改善につなげることができた。

6. 成果と課題

評価の場面が分かる指導案や、評価指標を明確にした記録表を作成、活用したことにより、複数の教員で指導目標の到達度について評価することができ、授業改善につなげることができた。また、今年度の到達度を元に、次年度の『個別の指導計画』の作成に役立てることができた。今後は、授業改善チェックシートを活用することや、客観的に学習到達度を評価する方法をさらに検討することで、キャリア発達の課題についてのPDCAサイクルを確立していきたい。